

令和3年度 丹波縄文の森塾9日目（1月15日）

新年を迎え9日目の丹波縄文の森塾を開催しました。

午前最初のプログラムは、シイタケ原木の玉切りです。12月の森塾で枝を切り落としたクヌギやコナラの木の幹を1メートルほどの長さに切り揃えます。枝とは違って太い幹の部分切るの小学生には少し難しいかと思われましたが、前回の枝切りでノコギリを使うコツをつかんでいたようで、思っていたよりスムーズに作業が進みました。次回2月の森塾でこの原木に菌を打ち込み、シイタケのほだ木にします。

続いて、杉玉づくりに挑戦しました。杉玉とは、杉の葉を集めてボール状にしたもので、日本酒の造り酒屋の軒先に飾られているのをよく見かけます。今回は、森公苑で樹齢60数年、直径80cmを超える大きな杉を伐採したので、その杉の葉を使って杉玉を作ることにしました。作り方は、竹の皮を編んでボール状にし、編み目に隙間がないように杉の葉を差し込み、最後にハサミでボール状に切り揃えます。最初から作り始めるには時間が足りないこともあり、竹で編んだボールに杉の葉をある程度差し込んだ状態のものを杉本サポーターが用意してくれていたもので、塾生の作業はそこからスタートです。束にした杉の葉を手で差していき、隙間が詰まってくるとラジオペンチを使って一本ずつ杉の葉を押し込んでいきます。そして、ハサミでボール状に切り揃えて完成ですが、少し時間が足りなくて持ち帰って各自で仕上げることになりました。

昼食には、七草風おかゆとうどんをいただきました。春の七草を集めるのは難しいので「七草風」のおかゆになりましたが、新年ならではの味を楽しみました。具沢山のうどんも大変美味しく、身体が温まりました。

午後は、山崎 春人先生（通称マリオさん）の指導で凧作りに挑戦しました。まずは、ビニールを凧の形に切り、骨組みとなる竹ひごを貼り付けます。そこに好きな絵や模様を描き、糸を張って完成です。出来上がると早速外に出て、凧がしっかり上がるか確認し、バランスが悪い場合は山崎先生と相談して調整します。当日、天気は良かったのですが、あいにく風が殆どなくて走らないと凧は上がりませんでした。それでもみんな元気よく走り回り、歓声をあげながら凧上げを楽しみました。



シイタケ原木の玉切り



杉玉づくり



七草がゆの説明を聞きながら昼食(七草風おかゆ・うどん)



風作り・風上げ